

# ナノテクてく

2012, No.1

## ナノテクノロジー総合展示に出展

2012年2月15日から17日にかけて東京ビッグサイトにnano tech2012が開催されました。広島大学ナノデバイス・バイオ融合科学研究所も出展し岡山大学の山本 進一 副学長や(株)メムス・コアの小切間 正彦 専務の訪問を始めとしてロシア他、海外の方々の訪問を受けました。今年度のテーマはライフ&グリーンテクノロジーであり省エネルギーや電池材料他、多数の展示とシンポジウムがありました。



東京ビッグサイト会場入口



巨漢揃い!の  
ナノテク研究員

会場ブースでの展示の様子



米イリノイ大学Ahmad教授(右から2人目)



(株)メムスコア小切間専務(右)

## 第1回放射光・ナノデバイス科学シンポジウムを開催

去る2011年12月9日に、広島大学の自然科学分野の特別研究センターである「放射光科学研究センター」と「ナノデバイス・バイオ融合科学研究所」が主催して、第1回放射光・ナノデバイス科学シンポジウムを開催しました。本シンポジウムでは、お互いの研究グループの積極的な交流を通して施設の運営、研究、人材育成等の状況について互いの理解をうながすことを目的としています。特に、それぞれの学術の質向上に資するとともに、社会からの期待に十分対応できる研究・教育活動とグローバルな人材育成を連携強化を目指します。そこで、現在の活動状況と今後の展開について活発な議論を行いました。また、お互いの施設見学と懇親会を行い、交流を深めました。第2回も計画しています。乞うご期待ください。

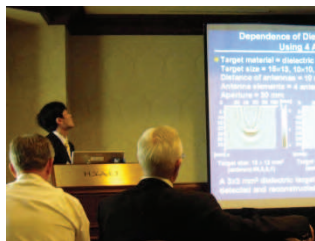




## 国際学会漂流記



国際学会は世界中へ研究成果を発表し、議論する場です。研究成果を世界に知ってもらい、その反響を元にした改善は有効だと思いませんか？



そういったことができる場が国際学会です。私は毎年1~2回、国際学会に参加し、発表しています。発表能力は重要ですので、準備から発表までの間は貴重な日々でした。そして世界中の人たちとの議論の中で蓄えられる知識や発見は自分の研究に役立っています。また学会の空き時間は観光したりします。ハワイの時は発表後の開放感で海にダイブしたりしましたね~(笑)。このように国際学会への参加は公私ともおもしろいので、みなさんも挑戦してみたいかたがでしょう！

吉川研究室 久保田 慎一

<http://www.rnbs.hiroshima-u.ac.jp/modx/conference.html>



## 平成23年度学位論文公聴会 修論・卒論発表会を開催！

研究所に所属する半導体集積科学専攻 博士課程後期課程3名(久保田慎一さん、川崎洋司さん、Ansari Taniaさん)の学位記公聴会を2月16, 17日に開催しました。また、2月16, 17日には修士論文発表会で8名、2月27日には卒業論文発表会で9名の学生が発表を行いました。皆さん緊張していましたが、日頃の研究成果を一生懸命発表しました。



## 自慢の装置あれこれ



HDR写真

**No. 1：透過電子顕微鏡(TEM) 日立HF-2100**  
観察対象に電子線を照射して、透過してきた電子の干渉像を観察する電子顕微鏡です。格子分解能は0.102 nmです。ご利用お待ちしております。

<http://www.nanonet.hiroshima-u.ac.jp/index.html>

## 日立ハイテクノロジーズ笠戸事業所を訪ねて

去る2012年1月20日に山口県笠戸市にある日立ハイテクノロジーズの見学会に参加しました。プラズマエッチング装置製造現場を実際に見学させて頂きましたが、クリーンスーツを着た技術者の方々が、実際に装置を組み立てて、検査をしていました。見学のご案内をしてくださった方のお話によれば、出荷前に装置を一度組み立てて、テストを行い、そして、分解して納品先に運び、現地で再度組み立てて、最後に技術者が現場で1ヶ月くらいかけて、最高の性能ができるように再チューニングすること。この職人気質にはたいへん驚くと共に、「すごい！」と思いました。世界一の技術力を維持する、そう簡単には実現できませんが、このような現場の技術者の努力の積み重ねがそうさせていると思いました(続く)。(T.K)



<http://www.rnbs.hiroshima-u.ac.jp/modx/index.html>

## 行事予定

- 3月 6日 研究所公開(新4年生対象)
- 3月14日 新4年生配属決定
- 3月19日 研究所追い出しコンパ
- 3月23日 卒業式・学位記授与式
- 4月 1日 新年度スタート!
- 4月初旬 花見/新歓コンパ



## 創刊にあたって

ナノデバイス・バイオ融合科学研究所 所長 吉川公麿

ナノデバイス・バイオ融合科学研究所はナノエレクトロニクスとバイオテクノロジー・医療との融合をめざして研究を行っています。専門的な成果や情報はAnnual Research Report、研究所ニュース、研究所パンフレットなどで毎年公開しています。このたび、一般の方にもわかりやすい内容のトピックスをナノテク&バイオかわら版「ナノテクてく」として随時発刊することにしましたので、ご笑覧いただければ幸いです。

